

2016年4月13日付シグロ21紙

川原大使インタビュー記事

「日本はグアテマラに対する支援を続ける」（仮訳）

（開発）協力：日本はグアテマラの教育、医療、スポーツ及びインフラ分野のプロジェクトに対し資金提供を行う。

13日、日本政府は世界銀行と共にグアテマラ乾燥地帯における食糧安全及び気候変動対策に関する270万米ドル相当のプロジェクト（実施団体はグアテマラ地域森林NGOのUtz Che'）の発表会を行う。同発表会では（Utz Che'を始めとした）地域実施団体が前述プロジェクトから学んだ教訓や得た経験について発表する予定である。本プロジェクトは当国乾燥地帯北部の極貧地域を中心に行われている。

川原英一日本国大使は、「本プロジェクトに加え、日本の若者がボランティアとしてグアテマラにおいて妊婦や子供を対称とした栄養や医療に関する講習、グアテマラ国民の環境保護やリサイクルに関する認知度を高めるための活動を行っている。」旨述べた。現在、グアテマラ17件において43名のボランティアが保健所、公立学校や地方自治体主催行事等において研修活動を行っている。

優先分野

川原大使は「日本のグアテマラに対する協力は教育、医療、マヤ文化遺産の保全、スポーツ、インフラ、自然災害対策及び環境に重点が置かれている。また、現在も幾つかの分野における研修が存在する。オスカル・ロペス（グアテマラ）教育大臣も日本で研修を受けた経験があり、同大臣は日本で得た知識や情報を活用した（グアテマラ人）教員向け研修を実施した。」と述べた。同大使はまた、「グアテマラではグアテマティカ(Guatemática)と呼ばれる公立学校向け算数の教科書も作成した。」と語った。

また、日本とグアテマラは気候や自然災害において類似点があることから、日本は国家防災調整委員会(CONRED)の職員50名に対して研修を行った。その後、国

家防災調整委員会(CONRED)はグアテマラ全国の公立小・中・高校において防災キャンペーンを行っている。

川原大使は、「2015年9月に、日本は75万ドル相当の自然災害対策関連機材を国家防災調整委員会(CONRED)に供与、右は（昨年発生したサンタ・カタリーナ市カンブライ II 地区における大規模な地滑りという）悲劇においても活用された。」旨述べた。

無償資金協力、技術支援及び円借款の3分野に分類出来る日本のグアテマラに対する協力は、1975年から2012年の間に総額9億5,000万米ドルに上る。日本大使館は本年11月にも総額200万米ドルに上る医療機材を当国3つの国立病院（ルーズベルト病院、サン・フアン・デ・ディオス病院及びケツァルテナンゴ病院）に供与する予定である。また、本年末には通信インフラ省に対しても関連機材を供与する予定となっている。